

令和4年度印西市地域公共交通会議
第3回本塾第二小学校周辺地域対策分科会 会議録

開催日時 令和5年3月14日（火）午前10時00分から午前10時50分
開催場所 印西市役所 別館1階 農業委員会会議室
出席者 岩崎員行委員、石井隆委員、板谷和也委員
欠席者 木内聡委員、織原拯委員、根本友也委員、櫻井敦委員、富澤実委員
事務局 交通政策課 本多課長、小林係長、秋本係長、桑原主査、堀内主査補
傍聴者 0名

次 第

- 1 開会
- 2 課長挨拶
- 3 議題
(1) スワン号の運行の運行見直しに係るアンケート調査の結果について（報告）
- 4 閉会

会 議 録

1 開会

(事務局) ただいまから、第3回本塾第二小学校周辺地域対策分科会を始めさせていただきますと思います。本日は、お忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。

出欠の報告

(事務局) 本日は、3名の委員の方々にご出席いただいております。

2 課長挨拶

(事務局) それでは、次第に沿って進めて参ります。課長挨拶になります。

【 課長挨拶 】

3 議題

(1) スワン号の運行見直しに係るアンケート調査の結果について(報告)

(事務局) それでは資料に基づき事務局より、議題(1)「スワン号の運行見直しに係るアンケート調査の結果について」説明させていただきます。

【 資料 事務局説明 】

(事務局) それでは、各委員の方から意見をいただきたいと思うのですが、A委員お願いします。

(A委員) 弊社、当事者といいますか運行事業者でございまして、いろいろご意見をいただいているのは承知と申しております。弊社の方も心の中では問題意識を持っておりまして、まずフルデマンドといえども停留場に来てくださいという制度が、どうも使いにくいのではないかと感じているところでございまして、現在8人乗りで運行していますが、これを弊社の利用している車に変更した上で、6名型の型にして呼ばれたら行くという方法は考えていただきたいというところでございます。利用者の方からご意見出ておりますタクシー利用補助券の配付というところなのですが、これに関して、私、意見一言申し上げたいことがございます。こういった形態で配付するかという制限を設けないと、なかにはめっちゃめっちゃな使い方をする人がいる。本来の主旨が元々、本塾周辺の交通不便地域の解消というところを焦点にして始まった事業でございまして、これを無制限なタクシー利用券というような形にしてしまった場合、例えば、デマンド交通区域で印西市内から中央駅のどこかに買い物に行くのに使うということであれば、それは税金を投じる本来の趣旨から外れてしまうと考えておりますので、そういったタクシー補助券というのは一つの案だと思いますが、その使い方についてよく考えないとそういったことが横行した場

合、他の市民の方からも配ってくれとなった場合どのような対処にするのか、無尽蔵にタクシー補助券を配り続けるという恐ろしいことが起こりかねないので、その辺をよく考えて、もっともっとやっていかないと、また同じようなことが起こってしまいかねないと思います。そういった点でタクシーを使ってモードチェンジ、呼ばれた時にモードチェンジをして、区域乗合いとしてその当該運行を行う無線を使ってオンデマンドで呼び出していく。終わったら通常タクシーに戻るという方法でやっていけば、タクシーの補助券を使っていただく。もしくは、これは当然区域乗合いならの話で、自立運行の好ましいところではありますが、当面行政の方に支援をお願いしつつ、こういった動きを浸透させていく方がよろしいのではないのかとの私の意見でございます。以上でございます。

(事務局) ありがとうございます。
 B委員、いかがでしょうか。

(B委員) 利用者の方から考えてみると、どういうのが1番使いやすいのかというのを主に考えた方がいいのかと。やはり利用券を配って利用者1人に電話するというのが1番利用しやすいのかと思うのです。この自由意見について、その中で3つ目「あまり利用されている方がいないように見られます。一種税金の無駄遣いだと思います」こういう意見を持つ人も結構耳にするのですけども、どうなのかなというところですね。以上です。

(事務局) B委員のそういった意見を持つ方が多いというのは、この自由意見欄についてというよりは、そういったお話しをされる方が身近にいるというそういうご意見ですか。

(B委員) そうです。

(事務局) 自由意見についての中でも、そのような主旨で3つ目以外にお書きいただいている方で何人か課題だというような方がいらっしゃいますので、身近な意見ベースということであるのかもしれないので、そう捉えていただいている方がアンケートの中にはいらっしゃいます。

(事務局) C委員、何かご意見ございましたらお願いします。

(C委員) この議題のご説明については特に意見はありません。見直しの必要性について議題以外のことも含めると、印西市では分科会の開催に際し、成立要件はないのでしょうか。9名中3名の出席というのは問題がないという状況という理解でしょうか。

(事務局) はい。分科会の位置付けとしましては、本会議前に開かせていただくという形で、事前の情報提供と意見をいただいてそれを本会議のところで諮ることになりますので、それまでの資料の修正ですとかそういうものを目的としておりますので、定足数というものは特にございません。

(C委員) だから問題ない。

(事務局) そうです。

(C委員) いや、私は問題だと思います。こうした分科会は、地域の意見を聴く場であると私は思っています。市民代表の方も分科会の委員に入っていますが誰も出席していません。さらに市の職員の方も入っていますが、執務中にも関わらず出席していないわけです。それで問題なしというのはどうかと思います。こうした分科会における、私のような市外在住の者の役割は大きくありません。欠席してもいいなら、私も欠席しますよ。

そのうえで、今後に向けた自由意見を申し上げるのであれば、スワン号が利用されていないということが地元で認識されていて、そのことについては地元の方々も問題意識を持たれているということのようですので、何らかの改善をすることについて、地元から反対意見はあまり出ないのではないかと考えております。ただ、実際にどういうふうに変えていくかについては、先ほどからのご意見をお聞きしても感じましたが、相応の問題が当然発生しますので、よく検討する必要があると改めて感じました。私個人は、タクシーチケットの方がよいと考えておりまして、理由はデマンドをフレキシブルなやり方で運営するのは簡単ではなく、車両をデマンドで呼ばれた時だけ変えるためには手続きが必要ということと、もう1つの懸念点として、目的外利用が増えるというのはその通りなのですが、デマンド型で運行したならそれが無くなるのかということとそういうことではなく、毎日同じ人が同じ不要不急の用途で利用され続けるような使われ方も、他の地域で私が実際に経験しています。こうした課題を解決しないままにデマンドを導入するのは税金の無駄になり得るので、そうならないようにするために制限を設けることを検討する必要があると思います。

もう1点、自由意見の中で気になったのですが、運転手のマナーで迷惑を被っているという意見が複数出ています。2種免許を持っておられる運転手の方は、運転のプロフェッショナルですので、他の運転手から見て模範となるような運転をしてもらわなければいけません。スピードを落とさないとか挨拶を返さない運転手をそのままにされてしまうと困ります。どのような形でやるにしても、こういうサービスに関わる部分の評価、それからそれを元に改善をすることは、整備制度の中に入れていったらいいのではないかとこのように私は感じました。

(事務局) C委員からの分科会のあり方について、ご意見いただいた点については丁度見直し含めて今検討しているところで、そもそもの位置付けが曖昧な部分があって、

その目的も制度始まった当初からちょっとずれてきているというのもありますので、新年度に改革しますので、今後は問題ないような形で運営していきたいと思っておりますのでご了承ください。

(事務局) 委員の方々から、それぞれご意見いただいたところですが、本日の分科会、出席の委員の方も少ないというのがあるのですが、17日金曜日の会議の時に、ある程度の分科会としての意見、こういうものを話し合ったというようなことで結果としては報告したいと考えていまして、現状具体的にどうするっていうところまでは、アンケート結果からはなかなかこうすべきというのは出てこないと思うのですが、意見全体としてこのままでいいのかというのは違うというのは、2年前に地域公共交通計画を作った時に既に結果としては出ていまして、何かしら見直しをしようということになっておりますので、方向性というか、この見直しの必要っていうのは、皆さんの一致するところだとは思いますが、具体的にその動きとして見直しをしていきたいと思いますというよりも、その見直すためのその足がかりをもうそろそろつけなきゃならない時期かなというのがあります、そういう意味でも、この資料に今回つけさせていただいておりますけども、23ページ、スワン号の実証運行の総括というものをこの段階で取りまとめて次のステップに入っていくのがいいかなというのが事務局としての考えになります。一番重要なこの最後の、今後の方針案というようになるのですが、今年の6月30日で今回のアンケート結果も踏まえて、2年前の状況から変わらない状況も踏まえて一旦休止として、それで新たな対応策をどうしていくかというののもうちょっと練って、最終的には交通会議にかけて意見を統一した形で始めていく、リニューアルするっていうのがよろしいかなと考えているのですが、この方針案についてご意見お伺いできればと思います。

(事務局) A委員

(A委員) 6月30日休止やむを得ないと考えておりますが、7月1日からどうするのだろうかというところは、具体的な案を示さなきゃいけない時期ではないでしょうか。その案が結果として良くなるのか、練り直さなきゃいけないのか、これはわかりませんが、ただ色々なことをやりながら合意していくことにはなると思うのです。6月30日切りました、7月1日から何か新しい事を始められるのですか代替というのは。その目算はどうなのでしょう。まずそこを質問します。

(事務局) 日付、6月30日という件では年度の第1四半期3ヵ月継続のイメージのものを、そのアンケート結果のデータを基によって決める流れとして日付設定させてもらっているところをごさいます、そういう意味で会議の方、今後やる予定である会議の方少し期間空けて、また次の会議を開いた後にすぐ決めて実施できるのであれば、7月1日ぐらいの目標というのは、ある程度目算として可能と思っておりますので6月30日の日付設定で対応しようとした状況でございます。

今、分科会の方で聞かせていただいて代替手段として、やはり市民の方にとっては6月30日で休止して、次空白期間があるとお話になった時に生活インフラという部分もございまして、その意見をいただいて結果としては6月30日というのは、ある程度性急と感じているところでございます。

(A委員) やっているサービスがずっと切れて、次の方ができるまで空くというのは、これよろしくないなと思うところでございます。

(事務局) わかりました。

そうすると、どちらかという日付を明確にここまで書かないで、ある程度、ぼやかすじゃないですけども、そういう方がよろしいってことですか。日付を括りであれば、代替手段が勿論用意できてからの話ってことですかね。

(A委員) 少なくとも具体的には代替案を用意した上で、6月30日切りますというのであれば、これは皆様の同意を受けられやすいんでしょうけども、とりあえず6月30日切りますが、これから代替案考えましょう、話し合いますとなると、これは紛糾する元になりませんか。弊社としても、運行事業の中止というのは1ヶ月前の申請ですから、ある程度日を区切っていただきたい。今日から辞めますというわけにいかないのだから区切っていただきたいところではあるんですけど。反面、利用者の方、そして切ったらその後どうするのかという案の無いまま話が進んでいくっていうのは、地域住民の方からも反発が予想されるんじゃないかなと思います。ここは、ご一考いただけないでしょうか。

(事務局) この方針案について、B委員、何かございましたら。

(B委員) 難しいですね。

ただ、どっかで区切りを付けていくしかないのかな。このままだらだらいってるところもあるし。これとは直接関係ないですけども、先週、近所の人なので、同居老人で娘が長野の方へ嫁いでおりまして相談来たのは何だろうっていうのは、娘さんの話しだと認知症も入ったりしている方というところで、印旛支所の月に2回の福祉協議会の方でやるような所へ通いたいのだけでも、心臓にペースメーカーが入っているのでも身障者のタクシー利用券は貰っているけど収入が無いということで何とかならないのかなというような相談でうちに来たんですけども。色々市の方とも話してみますというようなこともあって。これはもう本当に2、3軒隣のことなので、どういうふうにやれるのかとそこでちょっと色々考えたんですけども。そうすると本埜地区だけに限らずに、今そういう独居老人がうちの地区も増えていまして、独居老人が、ここ2〜3年孤独死で4人亡くなっているのです。うちの地区だけで。50件くらいの地区で。そんな事も考えてこれからの事を考えていくと、印旛地区・六合地区なんか結構そういう家庭が多いのかな。若者はみんな外へ出ちゃうというようなことなのでしょ

ども、その辺のところも考えながら色々これからのことを考えていく時期じゃないのかな。そういうふうに思います。以上です。

(A委員) さらによろしいでしょうか。

具体的といいますか、実際あった話でお話をしたいことがあります。自由意見の中に「小林駅でタクシーがいなくなった」というご意見がございます。小林駅に入っていったのは弊社ですが、これは撤退いたしました。理由としては最低賃金が払えない。朝から晩まで車を停めておいても動かなければ最低賃金が払えない。弊社、営利企業ですから、さすがに最低賃金を固定してまで車を置いておくことはなかろうというところがありまして撤退したという理由がございます。タクシーの補助券という話もあって、勿論これ私は、それはそれでやぶさかではないのですが、基本的な制限を設けてくださいと目的外利用にならないように。例えば福祉券でございますけれども、他人名義の福祉券を使う輩というのが後を絶ちませんし、東京ですと福祉券が金券式なので100円500円の。年度末が有効期限なのですが、年度末になると上野の金券ショップにいっぱい売っています。そういった物を渡すことにおいても管理上の問題等を考えなきゃいけないので、ある程度利用方法を縛ってくださいというのが税金の使い方の問題がございますので、それは私の意見ではあるのですが、小林駅にタクシー置いてくださいと言われて、B委員、今、小林駅にタクシー置けますか。

(B委員) 駅には置けないけども、無線配車で結構配っていますよ。

(B委員) ちょっと余談ですけども、無線配車で行く場合というのは迎車料金がかかってお乗せして、スワン号の利用形態から考えると小林駅なのか安食駅なのかというところを利用案内が、はたまた北総病院なのか北総栄病院なのですが、利用者の方にとってタクシーを使う一番の使いにくいポイントっていうのが着くまで料金がわからない。これなのです。料金がある程度事前に分かるのであれば使いやすいのですが、わからないからなかなか乗りづらいという点は否めませんで、その点において、これ運輸行政の方の問題もあるのですが、何らかわわかりやすいといいますか使いやすい料金体系になるような方法というものも考える必要があると思います。その点において、地域乗合いの制度を利用して、上手くやるのも一つの方法かなということを私は申し上げたかったことでございます。以上です。

(事務局) C委員、どうでしょうか。

(C委員) 駅待ちタクシーがいなくなった問題の解決方法としては、利便性を最低限の低下で済ませるために駅にタクシー呼び出しのための電話番号を明記しておき、ここに掛けると繋がってタクシーが来てくれるというようにするとよいと思います。複数のタクシー会社の番号を載せておくことさらによいですね。もう1つ

は、今おっしゃった通りタクシーは目的地までの運賃が事前にわからないのが問題です。この問題の解決法は、よく利用される目的地までの運賃を、だいたいいくらだと書いておくことです。特に駅や病院などタクシーのご利用者が多いところには、そういう情報を予めアプリとかじゃなくて乗り場に書いておくのが効果的です。そういうやり方で事前に情報を提供されつつ、タクシーが到着したら改めて運転手からもその場でご案内いただくという方法がいいのでは。私、JR小林駅に降りたことないので構造はわかってないですが、わかりやすいところに案内を入れていただくといいかと思います。それともう1つ改善方法についてですが、おっしゃっていただいた通り6月30日で休止として、翌日以降に代替の交通機関が特に無いという状態はいいことだとは思っていませんが、この利用状況だと影響は小さいので、そういうやり方で通そうと思えば通せないわけではありません。確認したいのですが、実証運行を開始する時に期限とか区切っていましたか。

(事務局) 当初の実証運行の計画の中で、何年間やるとか、何月何日までやるという明確な具現化したものは無い状況でございまして、ガイドラインに近いものも無いという状況でございます。

(C委員) それ、実証実験の体をなしてないですね。何年間か実験して、例えばその間の平均のご利用者数とか、あるいはその何時間、何時から何時位まで何処に向けてご利用が多かったとか。そういうのを検証してずっとやっていくか別の方法を考えるかというのを検討する、というぐらいのことを最初に決めておかないといけません。ルールおよび継続性の問題でして、そのような曖昧な始め方をしたのであれば、要するに実験期間が終了したから終わりですっていうやり方で終わらせて、それでしばらくしてから次のサービスに入りますっていうのは、あまり好ましくない。とは言いながらここから3ヵ月間で問題ない制度設計をして新しい交通サービスを始めるというのは、スケジュール的になかなか厳しいような気がいたしますので、運行期間を例えば9月30日までのできるのであれば、これから半年間でなんとかするというのはどうでしょうか。そうでなければ、私が見る限りでは、定時定路線の方に問題が大きいような気がしております。デマンドタイプの方は残しておいてその間に新しい次のサービスを考えていくというぐらいで少し時間稼ぎをするような方法もあると思います。方針案の中に、具体的な案がありませんが、今日お2人からいただいたご意見で、いわゆるフルデマンド化、それからもう1つがタクシー券の配布、私もどちらかくらいしかやりようが無いのではないかと思っています。どちらを選ぶにしても、無駄なご利用が増えないような条件の設定が必要です。ただ金券式は問題が多いので採用しない方がよいと思います。、他でよくやっているのが、身分証明を持って窓口に来てもらって利用書を作って、その利用書を見せてもらったら、例えば半額などの一定のルールで割引を受けられるっていうような形ですが、これははっきり言って事務対応が予約より面倒かもしれま

せん。そういう話ともう1つは利用に関わる条件で、地域内に住んでいたら誰でも利用可能にするのか。65歳以上にするのか70歳以上にするのか。或いは、免許を持ってない人のみ利用可能にするのか、方法はいろいろありまして、この辺りは議論と調整が必要かと思えます。条件の設定方法によって行政負担が幾らになるか、見込み額を計算しておかないと、行政としてもお金出しにくいのではないのかなと思えます。このあたりの議論をすると、僕は3ヵ月ではきついのではないかと思えます。どのようなやり方を提案するにしても、事前に協議会で相応のご説明をしていただければありがたいです。

(A委員) よろしいですか。

色々話しますけれど、先生おっしゃったように6月30日、さすがに拙速過ぎるのではないかなというのは私も思うところがございます。現に3月ですから、半年9月30日というところがいい点じゃないかと思うと同時に、現在ハイエースで運行しているものを弊社のタクシーに事業計画の変更申請を出して車を差し替える。車に関するご意見が多々ありましたので「車が大きい、威圧感がある」というところで通常のタクシー切り換えてやるという方法があります。認可上、タクシー一般乗用と区域乗合いこれ同じ車で二つの認可もらえますので、タクシーで走らせといてお電話があったから行くっていう方法で様子を見るということを行うのは、これは割と早くできると思えますので、9月までちょっと面倒見てくださいというと同時に、利用実態からすると1人2人ですからこのままもういらぬ。そもそもハイエースを当初使った理由というのが、朝の通勤・通学時間帯にバスの利用されるだろうというところがスタートだったのですが、そこの目算が外れている中で、現在の利用実態から考えるとジャパンタクシー1台頼まれれば無線で配車して、認可の関係で取りあえずはうちでしかできないことになるのですけれども、やらせていただいた上で広まってくるのだったら、印西市内3社共同で配車するという方法もあり得ると思うのです。それが最終的に印西市内にあるそういった同種の地域、今、B委員おっしゃいましたけども、1年間で4件でしたか亡くなったの。50世帯程度でそれ位亡くなってしまふ地域の足としてもやっていく方法もあると思えますので、次の交通会議の中で一足飛びにタクシー利用券にか色々変えるのではなくて、今ある体制の中で変えられる、変えやすい部分を変えて様子を伺って住民の方の意見も聞くという方法をとっていただけるとよろしいかと思えます。

(事務局) B委員、同じタクシー業者として、A委員の意見について何か問題ありますでしょうか。車両を変えるという話について。

(B委員) 車両を変えるのは、一般のタクシーでやるというのは全車両でやるのですか。

(A委員) 連絡票を書けば終わりですから、事業計画変更して。

(B委員) 今までのデマンドで車両を変えるだけだと何の意味もないのかなというところ

なんですけども、難しいですよ。どこでどうスタートして、どういうやり方をするかっていうのは、ただ、これ〇〇タクシーさんのスワン号の頃からずっとそうなのですけども、何ら進歩がないし乗らないし。そういうところどうなのかな。だから、それで利用券の方が一番いいのではないかと。資金も市の方で出してもらっておりますけど、不正利用があるのではないかと。それはあります。うちでも2〜3件ありました。この人違うよねというのが。以前、印西市でやったその福祉券は、乗ったお客さんから全額いただくのです。それに対して半額返す。それだと不正できないのです。そういうやり方がいいのではないかなというのは福祉課の方には言ったのですけども、こういう利用をしている人がいますよということで。その辺は、一旦全額いただいて、登録していただいた口座に半額返す。ただ、市の方が大変ですこれは。それが大変なのでもう丸投げしちゃった。そういう形を取っているのは、船橋市と川向こうでやっている地域がありますよね。

(事務局) 稲敷市ですか。

(B委員) 先ほどの独居老人じゃないですけど、その人は免許を持っているのですけれど娘から返上しろと。これからそういう人が沢山増えていく。だから、本埜地区だけではなく、印旛・六合の方もこれからのことを踏まえながら、そういう利用券でやれるような形でやっていくのが、これから考えていくべきことなのかなというふうには考えております。ただ、それをどうするかは会議次第でしょうけども。以上です。

(C委員) 私、タクシーチケットの方がいいのではないかと思っていたのですが、運輸支局さんにも確認していただきたいのですけど、普通、そのタクシー車両をタクシーとして使っていて、デマンドで使う時はデマンドでというやり方が一番効率的だなと思ったのですが、以前に、別の地域で止められたことがあります。デマンドで使う車両は登録して固定にし、この時間でデマンド以外は使う形にしろと指導されたのですが、これは非常に不便です。事業者の運用が面倒くさいですし、結局、同じように電話で予約をしているにも関わらず、これはデマンドです、これはタクシーですと煩雑なので、そのあたりの区別がちゃんとできるようならいいですが、難しいのであれば、今おっしゃっていただいたような不正をなるべく減らすような形での割引の仕方というのを工夫していただくのが、税金の無駄につながるのではと思います。

(事務局) そうしますと、今そのようにご意見いただいたのですけれども、運行については、6月30日というのは現実的に厳しいというような中で、9月30日これを持ってというのは、現時点では断定的な表現といなっていますので、この部分を目途という表現にする。また、この順番は逆の方がいいのかなと思いま

す。あくまで条件がそろって整った場合には、それを目途にというような書き方にさせていただければと思います。

(事務局) 先程、こちらからも説明させてもらったような流れではあるのですが、9月30日を目途に代替策というのは、9月30日の休止の方向性は目途をとりつつ、代替策の案の決定を持って休止するというような表現はどうでしょうか。これ現実的に厳しいという意見も踏まえた話しとして、今回実証実験の結果としてご説明させてもらって、それに向けて新年度から準備していくという流れがいいのかなというのをご提示させて、その意見を踏まえた結果で、そういう表現の方がよろしいのかなと思います。それでいかがでしょうか。

(A委員) そうしてください。

(事務局) B委員もよろしいですか。

(B委員) いいです。

(事務局) 23ページにつきましては、17日の会議の時にはそういう形で資料を作り直しまして、委員の皆さんに会議で諮るという形にさせていただきたいと思います。今いただいた具体案については、9月30日の目途を決めるわけですから、その間にこちらで色々調整して進めるというような方向に17日の会議で諮る。こうするかというのは17日にまでにはまとまりませんので、それは中間報告的な形の方針ということにさせていただければと思います。

(事務局) 分科会に出た案をご紹介しながら、本会議ではこういうものになりました。議論をしたということを報告する方向で考えたいと思います。

(事務局) それでは何か他にご意見ございましたら。なければこれで会議を終了させていただきます。よろしいでしょうか。

【 はいの声あり 】

5 閉会

(事務局) では本日、これもちまして会議の方は終了させていただきます。

なお、本日の報償につきましては、後日振込みさせていただきますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。